

海上自衛隊呉史料館(てつのくじら館)

海上自衛隊呉史料館は、海上自衛隊の潜水艦・掃海活動を一般の方々に知っていただくことを目的に2007年に設立された。史料館の目玉である退役潜水艦「あきしお SS-579」にちなんで「てつのくじら館」とも呼ばれている。

1 階の展示では、海上自衛隊の発展と、100年以上もの間、一大港湾都市であった呉市との密接な関係をまとめている。同じフロアには「海上自衛隊カフェ」があり、「あきしお SS-579」のメニューから本格的なカレーを提供している。

2 階は、第二次世界大戦後（1939～1945）の日本の復興と海軍の航路開通に大きく貢献した海上自衛隊の掃海活動を紹介している。当初、日本では効率的な掃海活動を行うための設備が不足していたため、海上自衛隊が通常の漁船を使って掃海活動を行わざるを得なかったこともあった。場合によっては、沈没の危険性があるにもかかわらず、意図的に機雷を作動させて「神風掃海」を行うこともあった。現在では、海上自衛隊が海底ロボットなどの高度なツールを使って地雷処理を行っており、館内には地雷の種類を説明する展示とともに展示されている。また、湾岸戦争（1990～1991年）後のペルシャ湾での地雷除去に向けた海上自衛隊の取り組みを紹介する展示もある。

3 階には潜水艦の展示がある。潜水艦の建造や開発の様子、潜水艦での日常生活の大変さ、潜水士になるために必要な訓練の様子などを展示している。また、魚雷技術や対潜技術の変遷、危機に陥った潜水艦の救助活動を行う際の後方支援についても展示している。

3 階は、1985 年に進水したゆうしお型潜水艦「あきしお SS-579」の実物の入り口につながっている。この潜水艦は 1985 年に進水し、多くの任務をこなした後、2004 年に退役した。2 年後には国内最大級の浮体式クレーンで現在の位置に吊り上げられた。潜水艦は涙型で、長さ 76.2 メートル、幅 9.9 メートル、総重量 2,250 トン。就役期間中は 75 人の乗組員を収容した。狭い船室を見学することで、潜水艦生活の大変さを知ることができる。